

“MeCre”、Gaby Wormann

Franz Kafkaの著書とH.R. Giger、Pierre Matterといったアーティストの作品から着想を受けたGaby Wormannは、自身の言葉を借りれば、「個々の倫理と複雑な生命システムへの人間の無遠慮な介入というテーマを取り扱う」アーティストである。啞然とさせられる“MeCre”は、Wormannによる“Mechanical Creatures”の略語をタイトルとする作品で、類まれた巧妙さを実証し、Wormannの昆虫の進化に対する未来的思想：新しく、ハイブリッドな生物形態 -より耐久性があり、効率的であり、かつ技術的に最適化されたメカニクスと融合した生命体-を表している。

このドイツ人アーティストは、ギア、プレート、ひげぜんまいやフィラメントといった時計製造やメカニカルエンジニアリングの小さな部品を、成形済みの昆虫の胴体に、オーダーメイドの美しいメカニカルな外骨格として取り込んでいる。

その結果として生まれたのが、薄気味悪いほど本物に見える人工的な昆虫シリーズなのである。普通のタランチュラが魅力的に見えなくても、Wormannによる *Lycosa tarantula* は、機甲化された体と機械的に強化された脚を備え、この蜘蛛を全く新しいエキゾチシズムへレベルアップしている。*Megasoma actaeon* では、メカニカルギアの印象的なレイヤーを携え、翅を広げた機械的なカブトムシは、母なる自然が作り出した以上の三次元性を備えており、*Tropidacris dux* は、エレガントかつ極大サイズのメインスプリングによって強化された触角をもつジャイアント・ブラウン・クリケットである。

このように複雑な作品を創るには、非常に高度な技術、ディテールに払う鋭い注意と、生物への包括的な理解が必要とされる。M. A. D. Gallery は、Wormann によるトリバネチョウ、ダイオウサソリや、世界最大級のカブトムシを含む限定作品 9 点を展示している。“MeCre”の作品一つ一つが、二層のガラス取り付け技術を使用したウェンジの木製フレームに収められているが、これは今回の“MeCre”シリーズの為に、ドイツの職人 Soeren Burmeister が特別に手作りしたものである。

詳細お問い合わせ:

Juliette Duru, MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Genève, Switzerland

メール: jd@mbandf.com 電話: +41 22 508 10 36.